



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

歴史資料館テーマ展 「元号あれこれ」

5月に、「平成」から「令和(れいわ)」へと改元が行われました。

そこで、今回のテーマ展ではこれまで使われてきたさまざまな元号を収蔵資料から紹介しています。

今回は、中林梧竹の作品も展示しています。

◆期間 ~7月14日(日)

◆場所 歴史資料館
常設展示室

中林梧竹「臨・正光甄銘」▶
(六十歳代後半)

「令」と「和」の文字が含まれています。探してみてください!



「星巖寺楼門の鯨瓦」と「小城町右原の肥前狛犬」を展示しています。

昨年9月末、佐賀県に接近した台風24号の暴風で祥光山星巖寺楼門の鯨瓦が門頂部より落下し、粉々に破損してしまいました。破片を拾い集め接合を行ったところ、復元が成功し展示することが可能になりました。鯨瓦は嘉永5(1852)年に小城平原村(現在の小城町畑田)の2人の瓦職人によって製作されたことが分かっています。

また、数奇な運命をたどって当歴史資料館に寄贈された小城町右原の肥前狛犬も一緒に展示しています。

◆場所 歴史資料館 2階



▲星巖寺楼門の鯨瓦



▲小城町右原の肥前狛犬

おぎの歴史探検隊

小城隕石〈その2〉

小城郷土史研究会

平和な江戸時代、2つの隕石は福智院護摩堂の「七夕石」として、小城の人々に拜まれて来ました。しかし、明治の世を迎えると、そこに科学のメスが入ります。きっかけを作ったのは榎本武揚でした。

明治政府の高官として活躍した榎本武揚は、隕石の調査研究をするなど、科学者としての顔も持っていました。

この榎本と親交があったのが、佐賀藩の藩主だった鍋島直大です。

直大は小城藩の11代藩主だった鍋島直虎の実兄でしたから、そのつてにより榎本は、直虎から七夕

石を見せてもらったようです。当時、廃藩置県により旧藩主たちは東京に住んでいました。おそらく家宝の七夕石も、一緒に小城から東京に運ばれていたのでしょう。

やがてこれらの石は、東京大学教師のエドワード・ダイヴァースの手で詳細に分析調査され、明治15年に報告書が発表されることとなります。

(続)



▲小城藩主 鍋島直虎

◆開館時間 9時~17時

◆休館日 毎週月曜日・祝日

小城市ホームページから

梧竹・歴史資料館・文化財

検索

【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課 (桜城館2階)

担当 下川・永田 ☎71・1132